

テーマ：法人企業統計季報（2012年7-9月期）
～製造業を中心に悪化が続く～

発表日：2012年12月3日（月）

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○ 夏場の景気の落ち込みを再確認

財務省より2012年7-9月期の法人企業統計季報が公表された。前期比では、売上高、経常利益とも2四半期連続の減少、設備投資も3四半期連続減少となるなど、夏場の景気が落ち込んでいたことを改めて確認させる結果である。なお、法人企業統計の結果が反映される2012年7-9月期GDP2次速報（12月10日公表）では設備投資が下方修正されるとみられ、GDP全体でも下方修正が予想される（1次速報段階の実質GDPは前期比年率▲3.5%）。

○ 売上高、経常利益とも減少。特に製造業が弱い

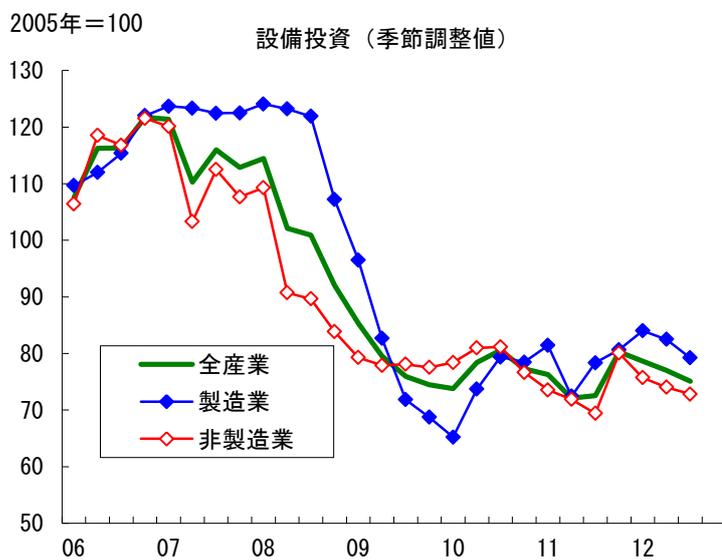
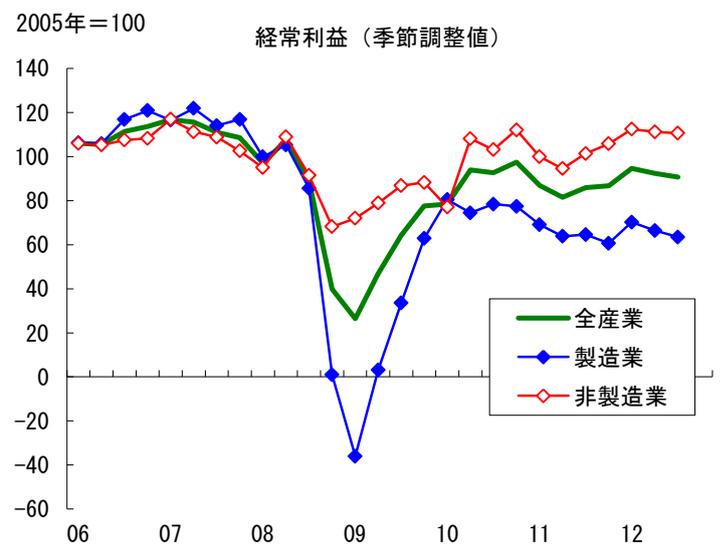
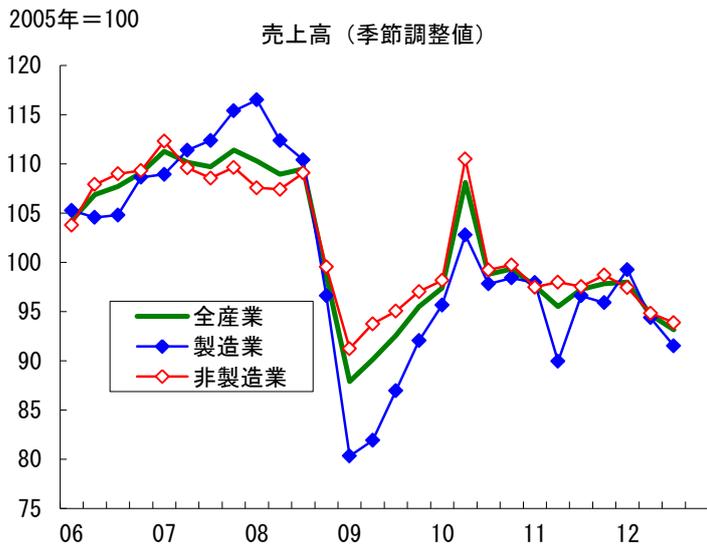
売上高は前年比▲4.4%（4-6期同▲1.0%）と2四半期連続で減少し、減少幅も拡大した。季節調整値でも前期比▲1.6%（4-6期同▲3.4%）と減少している。また、経常利益は前年比+6.3%とプラスだったが、4-6月期の+11.5%からは伸びが低下しており、前期比で見ると▲1.7%（4-6期同▲2.4%）と減少となっている。売上高、経常利益とも前期比では2四半期連続の悪化となる弱い結果である。

また、業種別の内訳を前期比で見ると、製造業が売上高▲3.0%（4-6月期▲4.9%）、経常利益▲4.5%（4-6月期▲5.4%）、非製造業が売上高▲1.0%（4-6月期▲2.7%）、経常利益▲0.5%（4-6月期▲1.1%）であり、4-6月期に続いて製造業の落ち込みが大きい。海外経済の不振から輸出が悪化していることや、エコカー補助金効果の剥落が影響しているとみられる。一方、非製造業の減少幅は小さく、経常利益の水準も震災前とほぼ同水準（リーマンショック前の水準は上回る）である。復興需要の効果から、引き続き非製造業は相対的に良好な状況にある。ただし、非製造業でも前期比では売上げ、利益とも減少していることには変わりなく、好調だった非製造業でも陰りが見えていることには注意が必要だ。

○ 設備投資も減少

設備投資（ソフトウェア投資額含む）は前年比+2.2%（4-6月期+7.7%）と増加幅が縮小、季節調整値（ソフトウェア投資額除く）では前期比▲2.5%（4-6月期▲2.1%）と3四半期連続で減少した。前期比の内訳では、製造業が▲3.9%、非製造業が▲1.6%であり、ここでも製造業の落ち込みが大きい。復旧・復興需要による押し上げや、震災後に先送りされてきた投資の顕在化などを背景として、日銀短観等における12年度の設備投資計画は高い伸びを示しているが、それが実際の投資に繋がってこない。海外景気の減速等を背景に景気の先行き不透明感が広がったことで、企業が投資を手控え・先送りしているものとみられる。10-12月期についてもこうした状況が続くとみられ、目先は弱い動きが予想される。

一方、①機械受注等では非製造業の設備投資意欲が比較的底堅く、輸出・生産の悪化が非製造業にまで波及する状況にはなっていないこと、②鉱工業生産などで先行きの景気下げ止まりの兆しが出ており、製造業の業況悪化にも次第に歯止めがかかる可能性が高いこと、等の好材料もある。設備投資の悪化ペースは今後和らいでくる可能性が高いとみている。



(出所) 財務省「法人企業統計」